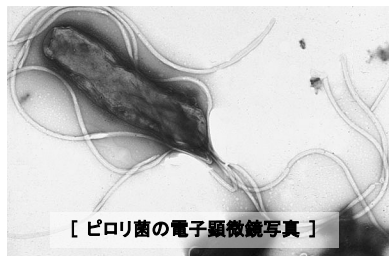




## ヘリコバクターピロリ菌ってご存じですか？

最近、テレビでもよく報道されている「ヘリコバクターピロリ菌」ってご存じですか？

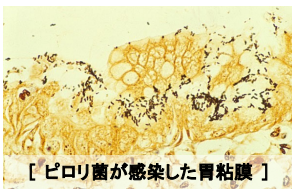
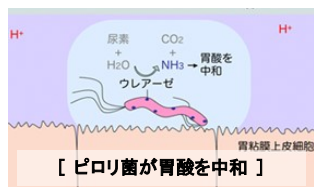


【ピロリ菌の電子顕微鏡写真】

日本は先進国の中では**胃がん大国**と言われています。東アジア（日本・韓国・中国）で全世界の**胃がん発生**の**6割**を占めます。

日本人に多い「胃がん」。その原因に深く関わるのが「ヘリコバクターピロリ菌（以下ピロリ菌）」です。

今まで胃の中は、胃酸の強い環境で細菌は生きられないと考えられていました。しかし、このピロリ菌自体の持つウレアーゼという酵素が、胃内の尿素を分解して作るアンモニアにより胃酸を中和し、胃の中で生きていく条件を整えているという事を 1983年にオーストラリアのロビン・ウォレンとバリー・マーシャルという方が発見、2005年にノーベル生理学・医学賞を受賞されました。



【ピロリ菌が感染した胃粘膜】

ピロリ菌が胃の中で持続感染すると、胃粘膜は炎症を繰り返し、粘膜層が薄くなり、萎縮性胃炎の状態となります。

そして、MALTリンパ腫・胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃がんの原因となります。ピロリ菌の感染率は**50歳代以上では7～8割**、20歳代では2～3割と言われ、子供の時の生育環境が影響すると考えられています。

ピロリ菌を調べる検査は、尿素呼気テスト、血液・尿中の抗体検査、便中抗原検査、胃カメラ時に行う迅速ウレアーゼ試験、組織鏡検法、培養法などがあります。

ピロリ菌の陽性者は、陰性者に比べ**胃がんの発生は5倍高く**、ピロリ菌陽性かつ萎縮性胃炎のある方は、陰性で萎縮性胃炎のない方に比べ、**胃がんの発生は10倍高い**と言われています。ピロリ菌の持続感染は5歳くらいまでに起こります。それ以後の感染では強い胃炎を起こして菌は排除され、持続感染とはなりません。

このピロリ菌は**除菌治療が可能です**。二次除菌までは医療保険が利用でき、当院でも多くの方が除菌治療を受けておられます。治療を受けるためには、胃カメラまたは胃透視で胃炎などの確認が必要です。また除菌成功後も15年間は、毎年の胃カメラチェックが望ましいと言われています。

健康サポートセンターでは、口や鼻からの胃カメラ検査を受けることができます。ぜひ皆さんも胃カメラ検査を受けてみませんか？



### 昨年度、一番発見が多かった「胃がん」

★昨年度に健康サポートセンターの健康診断を受けていただきました方のうち、「がん」を発見された方は24名でした。そして、**一番多かった10名の方が「胃がん」**でした。そのほとんどが胃カメラによって発見されています。

その他で多かったがんは、  
大腸がん 6名  
前立腺がん 3名  
などでした。



### 年に一度の人間ドックで健康チェックを

建築国保・料飲国保・衣料国保・職別国保・酒販国保の方も太子道診療所で人間ドックが受けられるのはご存知ですか。人間ドックは、各種のがん検診が含まれているため、がんチェックには最適です。昨年も多くの早期がんが見つかっています。太子道診療所の人間ドックでは乳がん・子宮がんも検査項目に含まれているため女性の方には好評です。申し込み方法や料金などは各国保により異なりますので、詳しくはご加入の国保にお問い合わせください。

\*平成26年度の後期高齢者ドックの予約は定員枠が残りわずかになりました。ご希望の方はお早めにご予約ください。京都市国保ドックの定員枠は終了しました。